

兵庫県における ニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術

Assessments and technologies for conservation of forest ecosystem
under overabundance of sika deer in Hyogo Prefecture

兵庫県森林動物研究センター 研究部 編集



兵庫県森林動物研究センター
兵庫 ワイルドライフモノグラフ 4号

Wildlife Management Research Center, Hyogo
Wildlife Monograph of Hyogo, No.4



写真1 衰退前（2006年時）の状況



写真2 衰退後（2010年時）の状況

口絵 氷ノ山のミズナラ林(標高 1073m地点)における
ニホンジカの食害による下層植生の衰退

はじめに

兵庫県森林動物研究センター（以下、研究センター）は、ワイルドライフマネジメントに係わる研究成果を広く市民の方々に知っていただくことを目的として、平成20年度から「兵庫ワイルドライフモノグラフ」を刊行してまいりました。これまでに3号を発行しておりますが、今回、第4号として「兵庫県におけるニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術」を刊行いたします。

皆さまご存知のように、兵庫県のみならず日本各地において、シカによる森林生態系および農業への被害は、もはや看過できないところまで広がっております。わたしたちワイルドライフマネジメントに従事している者にとって、シカによる被害を軽減させつつ、その保全を推進することは、最重要課題のひとつとなっております。

科学は一般に、広範に適用させることが可能な知識体系を構築することを目的にしましたが、シカによる森林生態系や農業への被害は地域差が大きいいため、まず兵庫県内における落葉広葉樹林の下層植生の衰退状況や土壌侵食被害などを正確に把握し、シカの過採食がどのような影響を与えているのかを調査してきました。また被害実態を調査すると同時に、シカの個体数管理手法の開発や、森林の整備手法の開発に関する研究も積極的に進めてきました。

今回、「兵庫県におけるニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術」と題したモノグラフを刊行することができましたのも、これまでの着実なデータの積み重ねによるところが大きいと考えております。さらに本モノグラフは、こうした研究成果を集大成するだけでなく、兵庫県で得られた研究成果をより広域の地域に適用させる可能性を提示したことが特筆されます。すなわち、兵庫県域スケールで被害をモニタリングするために開発してきた手法を、他の地方自治体においても導入できるマニュアルを作成したことによって、複数の隣接する地方自治体が統一的な調査を実施することが可能となったのです。

最後になりましたが、「兵庫ワイルドライフモノグラフ」は、編集委員会が毎年設定するテーマに沿って執筆された論文等をモノグラフとして編集しております。詳細につきましては、投稿規定をご参照ください。みなさまのご投稿をお待ちしております。

編集委員長 林 良博

目次

第一部 被害の把握と評価	・・・1
1章 ニホンジカによる森林生態系被害の広域評価手法マニュアル・・・2 藤木大介	
2章 兵庫県本州部の落葉広葉樹林におけるニホンジカによる下層植生の 衰退状況—2006年から2010年にかけての変化— 藤木大介	・・・17
3章 ニホンジカの過採食が暖温帯夏緑二次林の種多様性に与える影響 石田弘明・服部保	・・・32
4章 氷ノ山山系におけるニホンジカの動向と森林下層植生の衰退、 希少植物の食害状況 藤木大介	・・・48
5章 兵庫県本州部の落葉広葉樹林におけるニホンジカによる土壌侵食被害の 現状 内田圭・藤木大介・岸本康誉	・・・69
第二部 個体数管理手法の開発	・・・91
6章 森林生態系保全を目的とした広域モニタリングによる ニホンジカの密度管理手法の提案 岸本康誉・藤木大介・坂田宏志	・・・92
BOX 兵庫県における森林生態系保全のためのシカ管理目標値の設定	105
7章 囲いわなによるニホンジカ捕獲の効率化に向けた検討 阿部豪・坂田宏志	・・・106

第三部 森林生態系保全のための緑化技術	・・・115
8章 ニホンジカの激害地における不嗜好性植物を用いた緑化の応用可能性 石田弘明・服部保	・・・116
9章 不嗜好性植物の増殖と利用方法 服部保・南山典子	・・・・・・・・・・・・・・125
10章 野生動物育成林整備における植生保護柵の効果検証 －柵内外における初期の植生変化－ 藤木大介	・・・・・・・・・・・・133